青少年育成センターだより

第６４号　２０１９．４．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

「この里に　手毬つきつつ　子どもらと　遊ぶ春日は　暮れずともよし」　　良寛

（長い春の日もそろそろ暮れようとしている。でも、この村で子どもたちと手毬をつきながら遊んでいると、春の日がこのまま暮れなくてもいいのにと思ってしまう）

良寛さんらしいほのぼのとした歌です。今の子どもたちにも手毬つきをするくらいのゆったりとした時間があるとよいですね。

日本人のモラルはどこに・・・

ふと、道路わきの空き地に目を向けると、そこにはペットボトルや空き缶、紙くずが散らばっている・・・。このような光景を見られたことはありませんか。気持ちのよいものではありませんよね。皆さん方の住んでおられる街の道路を思い出してみてください。どのような状況でしょうか。

私は以前、信号機で車を止めている時に、前の車の若い男性が窓を開け、吸い殻入れからたくさんのタバコの吸殻を外に捨てた姿を見ました。なぜそのような行為をするのだろう、同乗していた女性は注意をしないのだろうか？と無性に腹が立ったことがあります。今、公共の精神を忘れたこのような日本人が増えているような気がするのは私だけでしょうか。

今、日本には多くの外国の方々が訪れています。その人たちが「日本の街はきれいだ。整然としていてゴミひとつ落ちていない」と言うことを聞きます。かつて、日本を訪れたヨーロッパの宣教師（フランシスコ・ザビエルやルイス・フロイス）が当時の日本社会の実情を記した手紙・報告書の中に「日本人はヨーロッパの最先進国の人々ですら足元に及ばぬほどの、高い文化とモラルを持っている」と記しています。また、幕末や明治初期に訪れた欧米人も日本人の美徳を褒めた記述をしています。これは、外国人が、日本人が古来から大切にしてきた**「惻隠の情」「誠実」「感謝」「思いやり」**等の精神を日本人の行動を見て感じたのでしょう。しかし、現状はどうでしょうか。そのような日本人はどこにいってしまったのだろうかと悲しくなる現状があります。

人間は、環境に左右される動物です。環境の良い（きれいな）所にいると気持ちよく感じ、「人に優しくしよう」「場を汚さないようにしよう」などと前向きな気持ちになるものです。しかし、そうでなく環境の悪い（よごれた）所だと不快に感じ、「自分がよければいい」「ゴミを落としていいんだ。自分だけではない」などと後ろ向きな気持ちを持つようになるのです。それは、汚れた情景を見て、すさんだ気持ちになるからなのでしょう。荒れた学校で、壊れたところを直し、汚れているところはきれいにする等、環境をよくすることで学校が立ち直ったなどの話もよく聞きます。きれいな環境の中で子どもたちの心が落ち着き、“荒れ”が解消したということなのでしょう。

朝の通勤途中、道路を掃いている人や袋を持ってゴミを拾っておられる人の姿をよく見かけます。本当にありがたいことです。このような人たちのおかげで私の街はきれいなのだと教えられます。私たちの街に、このような素晴らしい人たちがいらっしゃることを忘れてはいけません。